



2025年証券アナリスト第1次試験（春試験）

解答速報

2025/05/16 現在

科目Ⅱ

（財務分析、コーポレート・ファイナンス）

第1問（30点）

問1 C 問2 A 問3 D 問4 A 問5 B 問6 D 問7 C 問8 B
問9 B 問10 D 問11 C 問12 A 問13 C 問14 B 問15 A

第2問（10点）

問1 C 問2 E 問3 A 問4 D 問5 B

第3問（12点）

I

問1 B 問2 B 問3 E

II

問1 B 問2 E 問3 B

第4問（24点）

(1)

① A ② D ③ J
ア E イ B ウ C

(2)

④ J ⑤ F ⑥ G
エ B オ D カ E キ B

(3)

⑦ E ⑧ F ⑨ D
ク D ケ D

(4)

⑩ J ⑪ F ⑫ A
コ D サ E シ E

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

TAC

第5問（24点）

I

問1 A 問2 B 問3 D 問4 B 問5 D 問6 B 問7 C 問8 E

II

問1 A 問2 C 問3 C 問4 B 問5 C 問6 B

この解答速報の著作権は TAC（株）に帰属するものであり、無断転載・転用を禁じます。

なお、この解答速報は TAC 独自の見解に基づくものであり、正解であることを保証するものではありません。また、後日情報を更新する場合がありますので、ご質問などの受付はいたしかねます。

2025証券アナリスト1次試験（春）

「科目Ⅱ 財務分析／コーポレート・ファイナンス」

科目Ⅱの出題については、大問5問で構成され、第1問から第4問が財務分析（財務会計と財務諸表分析）、第5問がコーポレート・ファイナンスであった。全体的には、近年のレベルに近いものであったが、計算問題に時間の取られる内容が含まれていたため、時間管理がポイントであった。具体的な内容は、以下のとおりである。

第1問の正誤選択問題は、15問の出題であった。資産の評価基準、負債の会計処理、引当金については、かなり細かい内容であった。一方、国際財務報告基準（IFRS）、セグメント情報、棚卸資産、純資産の部、キャッシュ・フロー計算書、金融商品の評価、減価償却、退職給付会計、税効果会計については、是非とも正答したい内容であった。

第2問の個別計算問題は、5問の出題であった。近年の第2問のレベルからすると難易度が高かった。特に新株予約権の行使、外貨建て満期保有目的の債券、連結会計の3問は手間取ったかもしれない。

第3問の総合計算問題は、6問の出題であった。Ⅰ減損会計(3問)、Ⅱ生産性分析(3問)について出題された。Ⅰの減損会計については、問1は200%定率法による減価償却を踏まえた減損損失の計算であり、標準的なレベルであった。問2は、複数資産への減損損失の配分が問われており、指示に従って何とか解答したい。問3はのれんが絡む内容であり、難易度は高めであった。Ⅱの生産性分析は、第3問としての出題は初出であった。収益性分析や安全性分析に比べると手薄になりがちな領域であるが、問2の加算法による付加価値額は正答したい内容であった。

第4問の分析総合問題は、(1) ROA 及びその分解、(2) 損益分岐点分析、(3) 百分率貸借対照表におよび回転率、(4) 安全性分析と総じて標準的な内容となっており、完答が目指せるレベルであった。

第5問のコーポレート・ファイナンスは、Ⅰコーポレート・ファイナンス全般(8問)、Ⅱ企業価値評価(6問)であった。24点の配点に対して、14問出題されており、時間的には厳しい設定となっていた。Ⅰについては、問4サステナブルファイナンス、問7の減価償却の節税効果は初出の内容であり、問2経営戦略、問3多角化、問5キャッシュフロー、問6意思決定手法、問8売上債権回転期間は標準的な内容であった。Ⅱについては、一見すると複雑な設定となっていたが、財務データのNWCが残高であることに気付けば高得点の望める内容であった。

以上